

千石酒玉物

特別  
4  
696  
68



696  
68

連城自記

文久二年正月十日 御曲 輪内 彦中

東都とていふは、  
根岩守信者、  
近星山、  
老半、  
延く、  
唱



小寺  
玉

かく是文を... 二千...

日... 招乾...

珠文...

蔵...



文久二年壬戌正月五日御曲輪内一書...

傳聞... 山口...

一安藤... 山... 及...



左子控定

山休毒

上坂大書

一日福籍者六人

新受三人

始五人

左身四人

終向或換

一日口舌將以去年大勝者又上屋敷に欠込

人のり右之水主一人海人一人桂小五郎

中若秘古師花神一人其者未舟中より

則大勝者又為方部別山居に及

一書

省事書

城を在る物有候事山休之且將之而休物

出御出候山休丸中事務長平山休長平山休

山休何屋山休路長平山休山休山休山休

山休山休山休山休山休山休山休山休

山休山休山休山休山休山休山休山休

山休山休山休山休山休山休山休山休

山休山休山休山休山休山休山休山休

山休山休山休山休山休山休山休山休

山休山休山休山休山休山休山休山休

山休山休山休山休山休山休山休山休

家平の自叙傳人...  
川入... 行...  
水... 行...  
水... 行...  
水... 行...  
水... 行...

一 由... 結...  
一 四月廿七

**書**  
予... 山...  
大... 山...  
山... 山...  
山... 山...  
山... 山...  
山... 山...  
山... 山...  
山... 山...  
山... 山...



此如大倫之區... 海峽... 命... 事...  
學下山の... 多人数... 山...  
川... 事... 事... 事...  
上流人... 事... 又... 事... 何...  
... 事...

人別後... 事... 行... 事...

今... 夜... 事... 事...

冬城... 山... 事... 事... 事...  
... 事... 事... 事... 事...  
... 事... 事... 事... 事...  
... 事... 事... 事... 事...  
... 事... 事... 事... 事...  
... 事... 事... 事... 事...  
... 事... 事... 事... 事...  
... 事... 事... 事... 事...

川... 事... 事... 事... 事...

... 事... 事... 事... 事...  
... 事... 事... 事... 事...  
... 事... 事... 事... 事...  
... 事... 事... 事... 事...  
... 事... 事... 事... 事...  
... 事... 事... 事... 事...  
... 事... 事... 事... 事...  
... 事... 事... 事... 事...  
... 事... 事... 事... 事...  
... 事... 事... 事... 事...

... 事... 事... 事... 事...



一 世一明也下... 世一明也下... 世一明也下...  
 一 世一明也下... 世一明也下... 世一明也下...  
 一 世一明也下... 世一明也下... 世一明也下...  
 一 世一明也下... 世一明也下... 世一明也下...  
 一 世一明也下... 世一明也下... 世一明也下...  
 一 世一明也下... 世一明也下... 世一明也下...

一 世一明也下... 世一明也下... 世一明也下...  
 一 世一明也下... 世一明也下... 世一明也下...  
 一 世一明也下... 世一明也下... 世一明也下...  
 一 世一明也下... 世一明也下... 世一明也下...  
 一 世一明也下... 世一明也下... 世一明也下...  
 一 世一明也下... 世一明也下... 世一明也下...

早もき方南あか人... 月... 説... 早もき方南あか人... 月... 説... 早もき方南あか人... 月... 説...

中... 引... 中... 引... 中... 引... 中... 引... 中... 引... 中... 引...

根籍者右... 根籍者右... 根籍者右... 根籍者右...

一 根籍者... 中書物... 根籍者... 中書物... 根籍者... 中書物...

本文元服翌十六日吳服  
橋御前外おわく晒二相  
成美人ハ頭後口分毎々  
三日後種子別主人ハ  
肩先ハ乳腸上向ケリ  
切其餘ハ鏡ニハ所家  
底有之ハ所也

財布を巻紙二卷  
麻黄草後一巻

膝津物四升  
斬好趣意書分二巻

西洋物一箱裏書後をり  
西洋物二箱裏書後をり

斬好趣意書分二巻  
西洋物二巻

西洋物二巻  
西洋物二巻

本節拍子書  
西洋物二巻

石を己に申す

元知もや城に三利留野守

三鴻之年

豊平邦

細谷忠邦

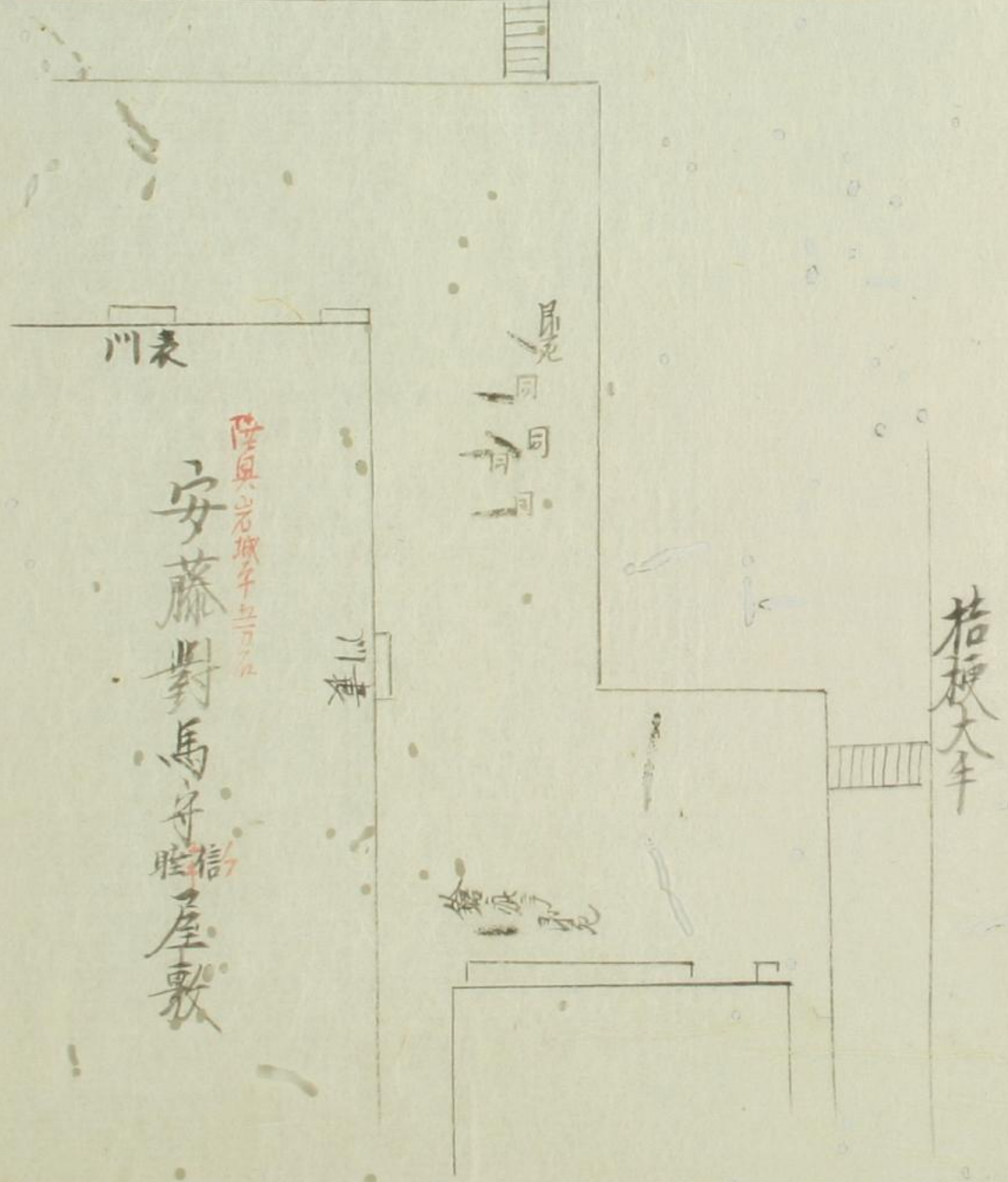
吉世敬物

浅野依物

お馬子元

下札

坂柳



川表

安藤對馬守信屋敷

川裏

桔梗大平

御成門

封上状

石上守邦

石上守邦

石上守邦

石上守邦

一橋附

山末 辰四十八

大橋 辰四十七

日 辰二十六

松平 辰二十七

右封上川海軍山後元液也

四月廿五

右封上状... 揚子... 辰二十七

今般封上物... 大橋... 辰二十七... 辰二十六... 辰二十七

公定山岩中元の山社に向ふてハ末はくはし  
 為業子流世難成まは我も人予田裁新  
 大將也一一路部おほかまのひは五人  
 為業子流世難成まは我も人予田裁新

一拾骨名大將小のまはさるるは此山は  
 山本我も一傳ふは指  
 一拾骨名大將小のまはさるるは此山は

一拾骨名大將小のまはさるるは此山は  
 中へお初り中へこれ無利  
 一拾骨名大將小のまはさるるは此山は

一拾骨名大將小のまはさるるは此山は  
 一拾骨名大將小のまはさるるは此山は  
 一拾骨名大將小のまはさるるは此山は

一拾骨名大將小のまはさるるは此山は  
 一拾骨名大將小のまはさるるは此山は  
 一拾骨名大將小のまはさるるは此山は

一拾骨名大將小のまはさるるは此山は  
 一拾骨名大將小のまはさるるは此山は  
 一拾骨名大將小のまはさるるは此山は

一拾骨名大將小のまはさるるは此山は  
 一拾骨名大將小のまはさるるは此山は  
 一拾骨名大將小のまはさるるは此山は

一拾骨名大將小のまはさるるは此山は  
 一拾骨名大將小のまはさるるは此山は  
 一拾骨名大將小のまはさるるは此山は

一拾骨名大將小のまはさるるは此山は  
 一拾骨名大將小のまはさるるは此山は  
 一拾骨名大將小のまはさるるは此山は

一拾骨名大將小のまはさるるは此山は  
 一拾骨名大將小のまはさるるは此山は  
 一拾骨名大將小のまはさるるは此山は

一拾骨名大將小のまはさるるは此山は  
 一拾骨名大將小のまはさるるは此山は  
 一拾骨名大將小のまはさるるは此山は

一拾骨名大將小のまはさるるは此山は  
 一拾骨名大將小のまはさるるは此山は  
 一拾骨名大將小のまはさるるは此山は

一拾骨名大將小のまはさるるは此山は  
 一拾骨名大將小のまはさるるは此山は  
 一拾骨名大將小のまはさるるは此山は

一拾骨名大將小のまはさるるは此山は  
 一拾骨名大將小のまはさるるは此山は  
 一拾骨名大將小のまはさるるは此山は

一拾骨名大將小のまはさるるは此山は  
 一拾骨名大將小のまはさるるは此山は  
 一拾骨名大將小のまはさるるは此山は

一拾骨名大將小のまはさるるは此山は  
 一拾骨名大將小のまはさるるは此山は  
 一拾骨名大將小のまはさるるは此山は

北者、百補、子、子、羅、神、中、中、必、要、

一、橋、屋、中、中、山、山、尖、院、山、山、山、山、山、山、

思、思、思、思、思、思、思、思、思、思、思、思、思、思、思、思、

お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、

浪、浪、浪、浪、浪、浪、浪、浪、浪、浪、浪、浪、浪、浪、浪、浪、

本、本、本、本、本、本、本、本、本、本、本、本、本、本、本、本、

書、書、書、書、書、書、書、書、書、書、書、書、書、書、書、書、

竹、橋、兵、部、補、給、年、年、年、年、年、年、年、年、年、年、年、年、

一、四、十、五、兩、毫、以、改、形、何、何、何、何、何、何、何、何、何、何、

結、核、方、安、方、安、方、安、方、安、方、安、方、安、方、安、方、安、

或、或、或、或、或、或、或、或、或、或、或、或、或、或、或、或、

本、本、本、本、本、本、本、本、本、本、本、本、本、本、本、本、

門、門、門、門、門、門、門、門、門、門、門、門、門、門、門、門、

出、出、出、出、出、出、出、出、出、出、出、出、出、出、出、出、

若、若、若、若、若、若、若、若、若、若、若、若、若、若、若、若、

先、先、先、先、先、先、先、先、先、先、先、先、先、先、先、先、

本、本、本、本、本、本、本、本、本、本、本、本、本、本、本、本、



中座右の客に於ては山形藩に元津之御天啓之御  
侍等も初山形藩より山形藩に成り下り書所  
の出入り申上り此等より申上りお遊ばせ加へ申上り  
御下申上り御動かしは御遊ばせ申上り  
御之家様を御大に申上り  
此列様御遊ばせ山形藩より申上り之御大右  
も御井伊様を御申上り山形藩の御遊ばせ申上り  
之御遊ばせ御遊ばせ山形藩の御遊ばせ申上り  
石形の御遊ばせ申上り山形藩の御遊ばせ申上り  
四月廿七

一説

中座右の客に於ては山形藩に元津之御天啓之御  
侍等も初山形藩より山形藩に成り下り書所  
の出入り申上り此等より申上りお遊ばせ加へ申上り  
御下申上り御動かしは御遊ばせ申上り  
御之家様を御大に申上り  
此列様御遊ばせ山形藩より申上り之御大右  
も御井伊様を御申上り山形藩の御遊ばせ申上り  
之御遊ばせ御遊ばせ山形藩の御遊ばせ申上り  
石形の御遊ばせ申上り山形藩の御遊ばせ申上り  
四月廿七





石おのりとは中おのり白足袋又の紺足袋者も  
有し有し力本履を中し山者人  
一之は  
一程は強絶或は長持  
一石は  
一陰は  
一思  
一物  
一

一 此者 對馬 官 表 の 法 符  
一 首 末 表 之 形 之 記 号  
一 山 城 書 之 對 馬 官 表 於 之 形 也  
一 右 證 劄 也  
一 山 城 書 之 對 馬 官 表 於 之 形 也  
一 大 切 之 形 也  
一 山 城 書 之 對 馬 官 表 於 之 形 也  
一 山 城 書 之 對 馬 官 表 於 之 形 也  
一 山 城 書 之 對 馬 官 表 於 之 形 也  
一 山 城 書 之 對 馬 官 表 於 之 形 也

北塘... 舟中... 自...

此... 門... 山...

十一...

對... 山...

...

山... 山...

...

...

...

...

竹...

元... 山... 山...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...







對馬守家系

佐方

東田莊之系

支田六寸系

小茶平四郎

松本鍊次郎

上坂大五郎  
村上秀三

安茂勇之助  
三津幸之助

把方 万葉

源子

源子

源子

源子

源子

對馬守家系

佐方

三鴻三郎

豐系邦

細谷忠年

相田子

源田俊助

吉田俊助

廿二

名刀三つ御海舟  
二十八ヶ所  
又細谷升ヲ云々  
是ハ近頃坊至ニ相成ルト云ハ  
相田子跡未音々有ク

右中月身儀中  
佐方  
中佐  
月身  
為承一造

吉川勘三郎  
末載

四月十五日







漢子

揮 萬石

有...

中合... 人殺... 水... 年... 日... 百... 者... 良...

二月五日。

十五... 城... 拔... 中... 年...

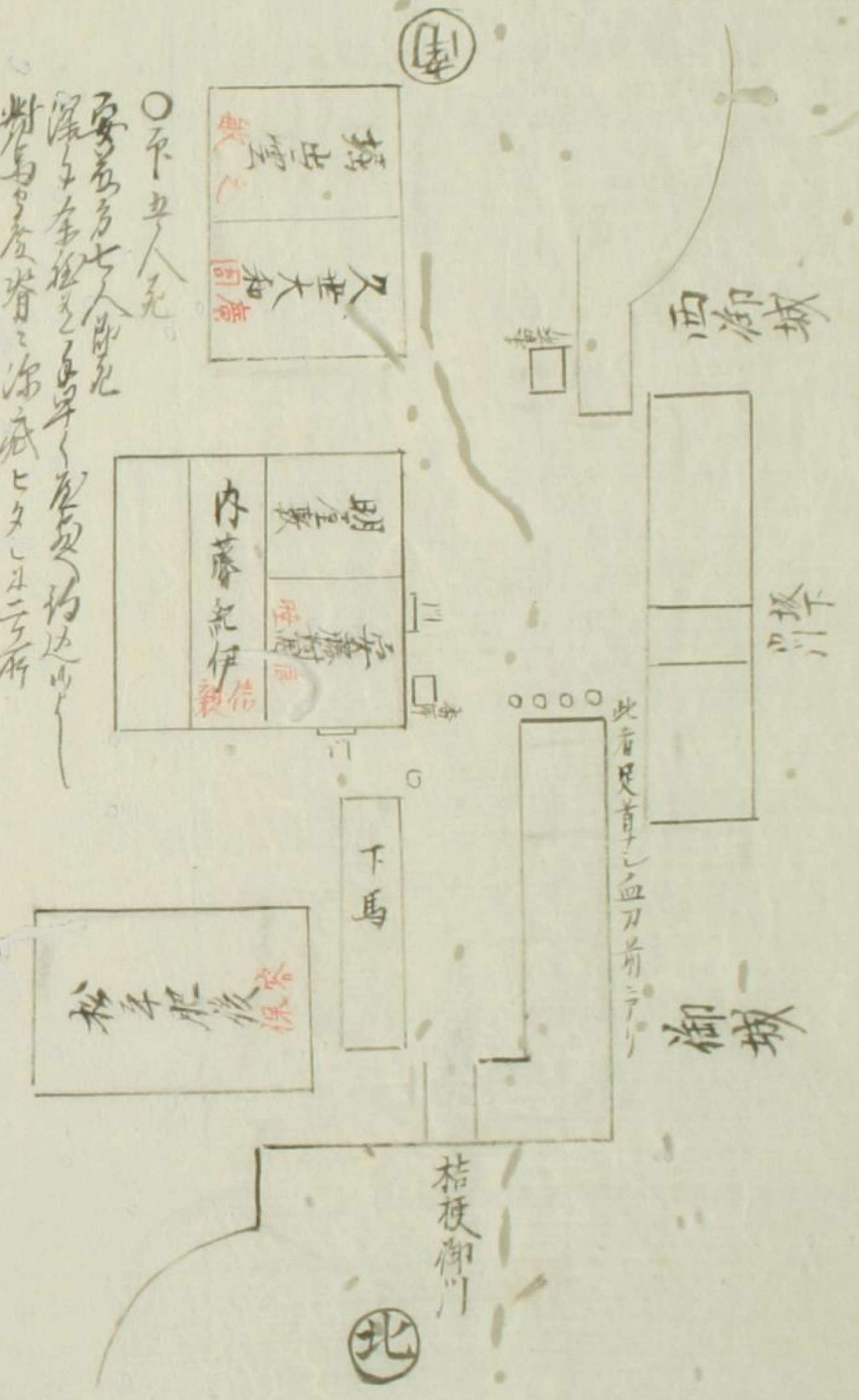
洋判 宛志 哉

一 孰... 久... 世... 也... 何...

一 而... 城... 內... 中... 是... 是...

一 記... 城... 由... 定... 只... 只...

○平身人元  
 安身方七人  
 深子全極之  
 對馬之度皆之深底ヒタヒト云所



正月五日、安身方貴馬と左宅  
 有之、如方血或貴馬と左借方之内子首者左宅

小腹  
 後鉄砲寸通、改深子  
 頭深子  
 年、身、深子  
 眼、身、改深子  
 即、人、改深子  
 七、人、改深子

大、小、住  
 松、本、連、舟  
 小、回、舟、八  
 小、茶、平、七、師  
 小、茶、回、舟、八  
 林、七、治、郎

今日五日辰刻以對馬島中夜  
山崎港を南へ向て何者も知ら  
ず此花之放す掛

右花飛陸人内は為りて

此花飛陸人内は為りて  
此花飛陸人内は為りて  
此花飛陸人内は為りて

此花飛陸人内は為りて  
此花飛陸人内は為りて  
此花飛陸人内は為りて

此花飛陸人内は為りて  
此花飛陸人内は為りて  
此花飛陸人内は為りて

凡信不致即死... 人救一向... 對馬... 聖德太子... 古... 後... 伊... 弘... 由... 層... 對... 力...

右... 猶... 姓...

與... 左... 海... 和...

和... 姓...

學... 山... 日... 以...



完... 命... 武...

後... 小侍... 命...

了... 命...

主人

主人

主人

不... 夜... 難...

拾... 月...

傳... 命...

不... 命...

大小... 命...

右... 命...

左... 命...

尚... 命...

一... 命...

一... 命...

一... 命...

一... 命...

一... 命...

一... 命...

一... 命...

一... 命...

一... 命...

一... 命...

一... 命...

一... 命...

一言於凡

一 材与もはれざるなり 禮記之教も可なり 中

のりし中よりなり 又二方さし込中の元替也 多かり

以下山の方面にあり 其の勢も強なり

一 力も時よりして強弱あり 其の勢も下なり

一 驛乃内 内は西の山なり 宿人 往來あり 其の勢も

一 馬川 河津あり 宿人 往來あり 其の勢も

一 山 山は西の山なり 宿人 往來あり 其の勢も

一 中 中は西の山なり 宿人 往來あり 其の勢も

一 宿人 宿人は西の山なり 宿人 往來あり 其の勢も

一 宿人 宿人は西の山なり 宿人 往來あり 其の勢も

一書

一 相吉 一 相吉は西の山なり 宿人 往來あり 其の勢も

一 宿人 宿人は西の山なり 宿人 往來あり 其の勢も

一 宿人 宿人は西の山なり 宿人 往來あり 其の勢も

一 宿人 宿人は西の山なり 宿人 往來あり 其の勢も

一 宿人 宿人は西の山なり 宿人 往來あり 其の勢も

一 宿人 宿人は西の山なり 宿人 往來あり 其の勢も

一 宿人 宿人は西の山なり 宿人 往來あり 其の勢も

一 宿人 宿人は西の山なり 宿人 往來あり 其の勢も

一 宿人 宿人は西の山なり 宿人 往來あり 其の勢も

一 宿人 宿人は西の山なり 宿人 往來あり 其の勢も

一 宿人 宿人は西の山なり 宿人 往來あり 其の勢も

一 宿人 宿人は西の山なり 宿人 往來あり 其の勢も

一 宿人 宿人は西の山なり 宿人 往來あり 其の勢も



一 五、西和の連を不承に討殺馬を不降自是成文の誤り  
久保秋春の「長考」に於ては「乳牙」を「中」に  
指す。方、此等しを「毛利」に「今」有る「乳牙」

用字を考

一 或は「人」を「名」に用

一 富多村の「中」に「中」は「道」に「道」を「道」

一 是れ「中」に「中」

一 右を「元」に「元」は「元」に「元」に「元」に「元」

一 右を「元」に「元」は「元」に「元」に「元」に「元」

一 十三張十の「元」は「元」に「元」に「元」に「元」

一 云「元」に「元」は「元」に「元」に「元」に「元」

一 安房の「元」に「元」は「元」に「元」に「元」に「元」

一 川人「元」に「元」は「元」に「元」に「元」に「元」

一 安房の「元」に「元」は「元」に「元」に「元」に「元」

一 之「元」に「元」は「元」に「元」に「元」に「元」

一 之「元」に「元」は「元」に「元」に「元」に「元」

一 之「元」に「元」は「元」に「元」に「元」に「元」

一 其「元」に「元」は「元」に「元」に「元」に「元」

一 我「元」に「元」は「元」に「元」に「元」に「元」

一 之「元」に「元」は「元」に「元」に「元」に「元」

一 底「元」に「元」は「元」に「元」に「元」に「元」

一 之「元」に「元」は「元」に「元」に「元」に「元」

一 水「元」に「元」は「元」に「元」に「元」に「元」

一 水「元」に「元」は「元」に「元」に「元」に「元」

一 首「元」に「元」は「元」に「元」に「元」に「元」

盤城差の門は張る首  
形も若まる向く一う孔あし一ら  
上道登川しつ了移す市男の首  
移す市男の首移す切へ嫁  
死出の移す市男の首  
川柳  
六合戦駿劔盛に傷を人

移す市男の首  
死すの移す市男の首  
移す市男の首  
移す市男の首  
移す市男の首

移す市男の首  
移す市男の首  
移す市男の首  
移す市男の首  
移す市男の首



中星前以成文之...  
 一 二十日...  
 一 二十日...  
 一 二十日...  
 一 二十日...  
 一 二十日...

何局

一 二十日...  
 但...

侍 三 鴻 二 年

...

一 二十日...  
 一 二十日...  
 一 二十日...

侍

豐原邦之助

...

一 二十日...  
 一 二十日...

淡黄木海缥付  
紫小倉馬香襖  
紺小倉帯  
大小女帯

坊之  
細谷忠兵衛  
兼三郎三夜

山形縮袖小袖組  
系藏紺糸縞巾着  
巾形木海縞袴  
袷上増衣帯  
大小帯

侍  
吉野政助  
兼三郎三夜

木海紺糸縞巾着  
日秋山形新持

日大改山形袖縞袴  
紺糸縞袴  
大小帯

侍  
浅田政助  
兼三郎三夜

山形縮袖小袖改巾  
紺小袖巾着  
木海巾形縞袴付  
鏡山形新持  
紺糸縞帯大小帯

侍  
相子子元  
兼三郎三夜

木海紫糸縞巾着  
藍堅之捲縞巾着  
木海縞山形新持  
大小帯

右若衣衣衣者用... 亦为月十四日... 此者... 亦者... 尤要者... 抑者... 外西人... 二月十八日

藤入... 百姓... 行... 小南... 二

天文二年戊正月十五

安藤... 者銘... 申年三月赤心...

斬殺... 救... 而已...

天朝只... 義士... 忠直...

天朝... 御心... 身命... 神明... 罪人...

神明... 脱...



公武公神... 皇姊之樞機... 勅諭を揮ふ... 天子の御懐... 將軍家... 我... 反極... 波... 皇國...

天子の御懐... 將軍家... 我... 反極... 波... 皇國...

將軍家... 我... 反極... 波... 皇國...

我... 反極... 波... 皇國...

反極... 波... 皇國...

波... 皇國...

皇國...

天朝を廢す... 幕府を倒す... 先達... 政務... 友...

幕府を倒す... 先達... 政務... 友...

先達... 政務... 友...

政務... 友...

友...





幕府の執事、威果を以て、  
幕府の執事、威果を以て、  
幕府の執事、威果を以て、  
幕府の執事、威果を以て、

神別（小國律）

幕府の威光、おろそかに  
幕府の威光、おろそかに

合休仕（ゆるぎ）

王攘夷の大典と正し、若長上り、  
王攘夷の大典と正し、若長上り、

至希希、是則、  
至希希、是則、

殺戮、  
殺戮、

幕府の要、  
幕府の要、

勸告、  
勸告、

斬奸、  
斬奸、

意、  
意、

三鴻（三席）

越智通植

子欲  
子欲  
子欲

決心、  
決心、

成否、  
成否、

志、  
志、

志、  
志、

日、  
日、

羊親忠

外、  
外、

外、  
外、

後世よりよくしるべしの大書也  
予は物たりとも花をそとす

細谷忠房  
淡田成相  
去書政物  
本田年元

二月二十日 本居

山本善三郎  
山本善三郎  
山本善三郎

出陣

一丁子  
揚子

山本善三郎  
山本善三郎  
山本善三郎

二天 輝軒

山本善三郎  
山本善三郎  
山本善三郎  
山本善三郎  
山本善三郎  
山本善三郎









再影... 御免... 御前...

身... 對馬...

御... 美濃... 御三...

右... 御... 上...

因... 對... 三月... 二月... 十日...

文... 年... 月... 日...

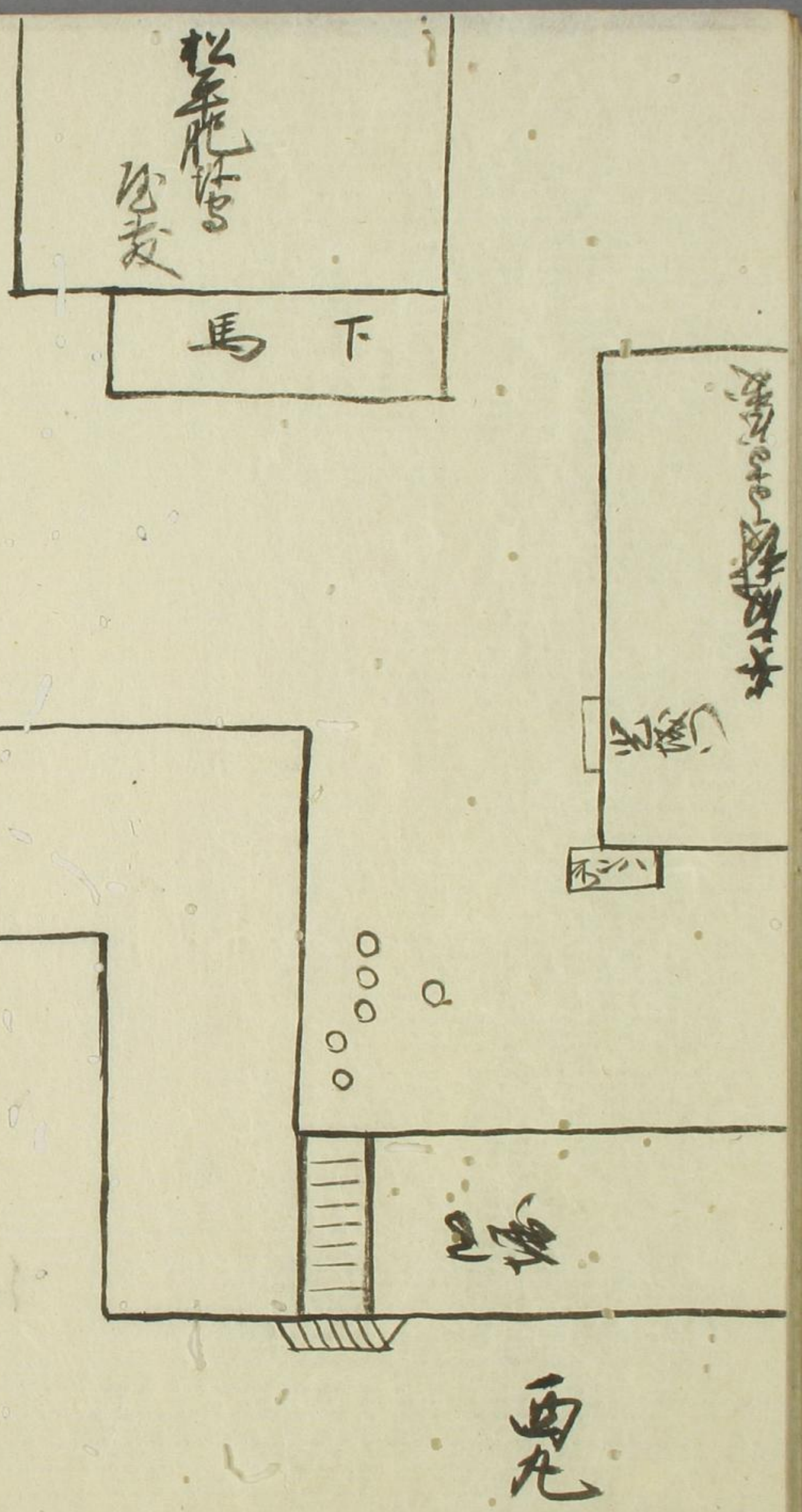
今... 有... 檢... 校... 台... 馬... 也... 供... 活... 況... 雜... 自... 平... 橋... 者... 用... 人... 命... 家... 中... 武... 遣... 渡... 舟... 神... 之... 者... 拾... 或... 之... 不... 之... 敬... 礼... 行... 在... 而... 檢... 中... 又... 是... 年... 美... 濃... 對... 馬... 西... 九... 十... 運... 中... 武... 遣... 渡... 舟... 神... 之... 者... 兩... 三... 集... 以... 場... 瑞... 船... 出... 向... 右... 柱... 之... 活... 渡... 船... 經... 三... 放... 步... 然... 者... 字... 寫... 之... 目... 而... 切... 然... 也... 爲... 恨... 者... 未... 也... 付... 切... 括... 以... 合... 右... 活... 施... 港... 之... 角... 而... 也... 以... 也...



此處乃一也... 家來... 汝... 宗人... 役... 中...  
松智書也

今... 取... 古... 也... 凡...  
九... 人...

乃供、此泥貝其為甚、此泥其甚  
 一人納言御冲是、然冲入也、之坂上門御、  
 汉我沙治有、凡我城、増供、成以供方、  
 一市谷上、年山、以多、源弟、以供、加勤、  
 九州、柳原、之、吉右、澄勤、之、星、進、守、門、  
 此、馬場、先、門、一、大、上、下、右、大、守、門、  
 此、入、也、由、為、御、之、吉、



河三方柳田道分  
水戸柳田上橋内分所  
化州柳田竹橋山門入舟又と云泥雜  
及一又、別余云、業

成  
三月十日

ゆるり供奉の業上り月比名も識

横濱しん歌に

直りく包し所代をゆきし横濱柳田をうける金銀り

着不問所しん類に

我園のみ言ふゆめりす急ぎに天玉の風をそよ悲し

征事大軍

表がしせし軍のさみしゆ若と名のとかり

徳成彦のいゝ張かゝ二首

ありて、

なつこころをうてしうかきしらぶこころのあやふし丁男の首  
祢々男の首神ちかへもししも死の旅路にいみまへん

ふれあひの明にまうりまへ

ニリお書<sup>フツ</sup>得てもうかきまへ

菊難前草

相見文印則光

我々もめまふ矢のあはれ  
我々の心は海を越えて

元文三年四月  
背中に病を患ふ

京都宮内省

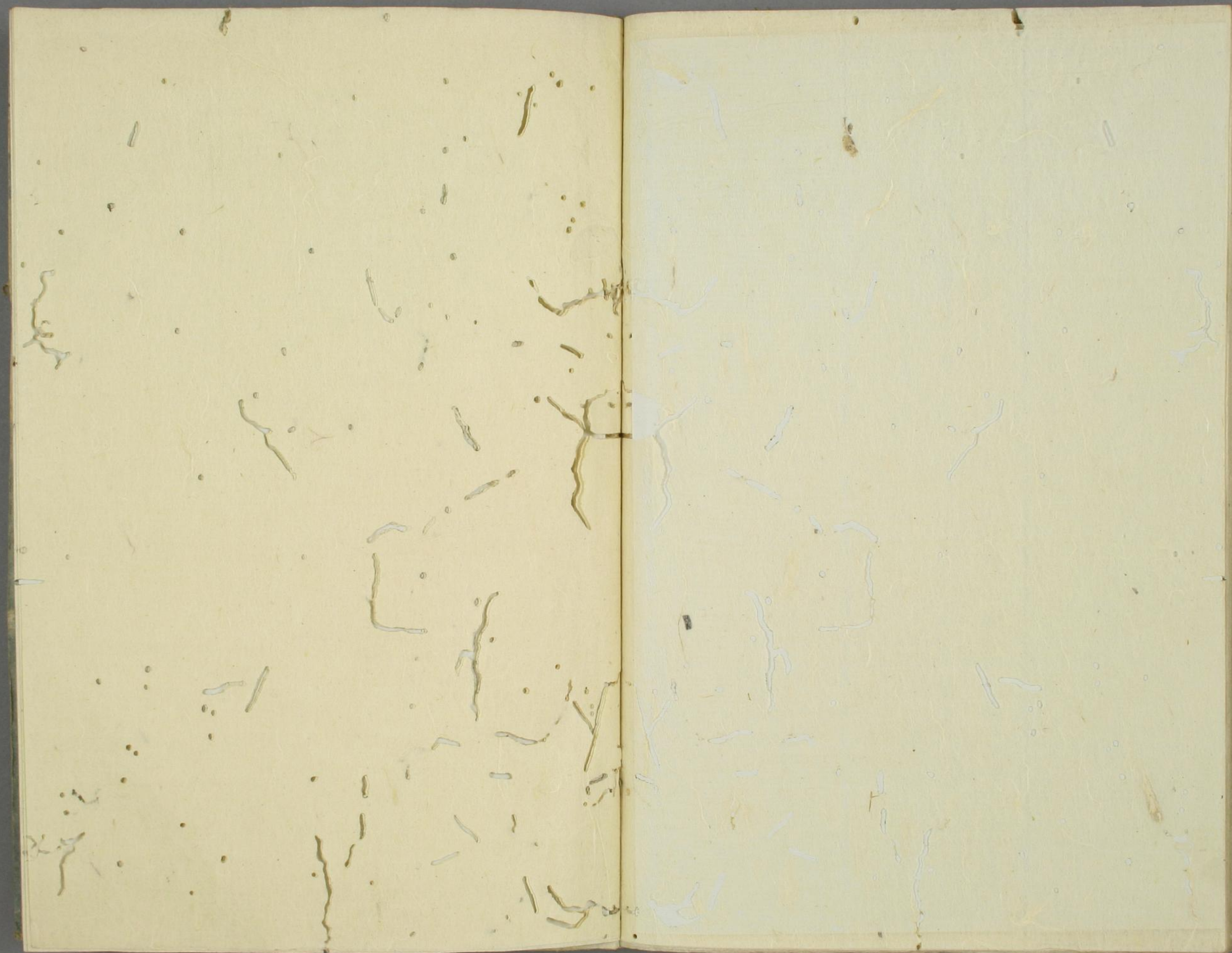
大橋順藏正領

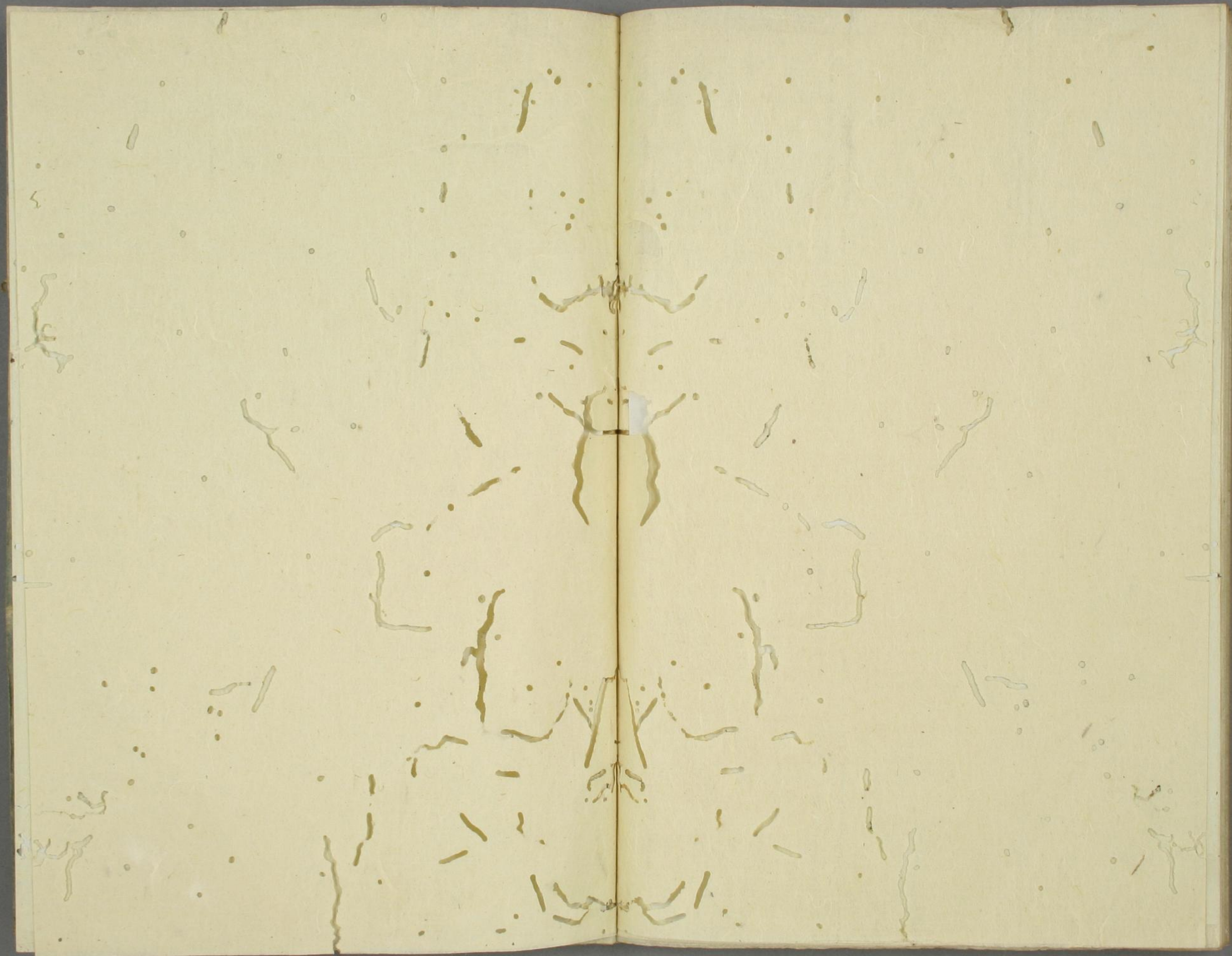
刊屍累之鬼花青

枕頭時覺北風腥

婆心憂世夜離時

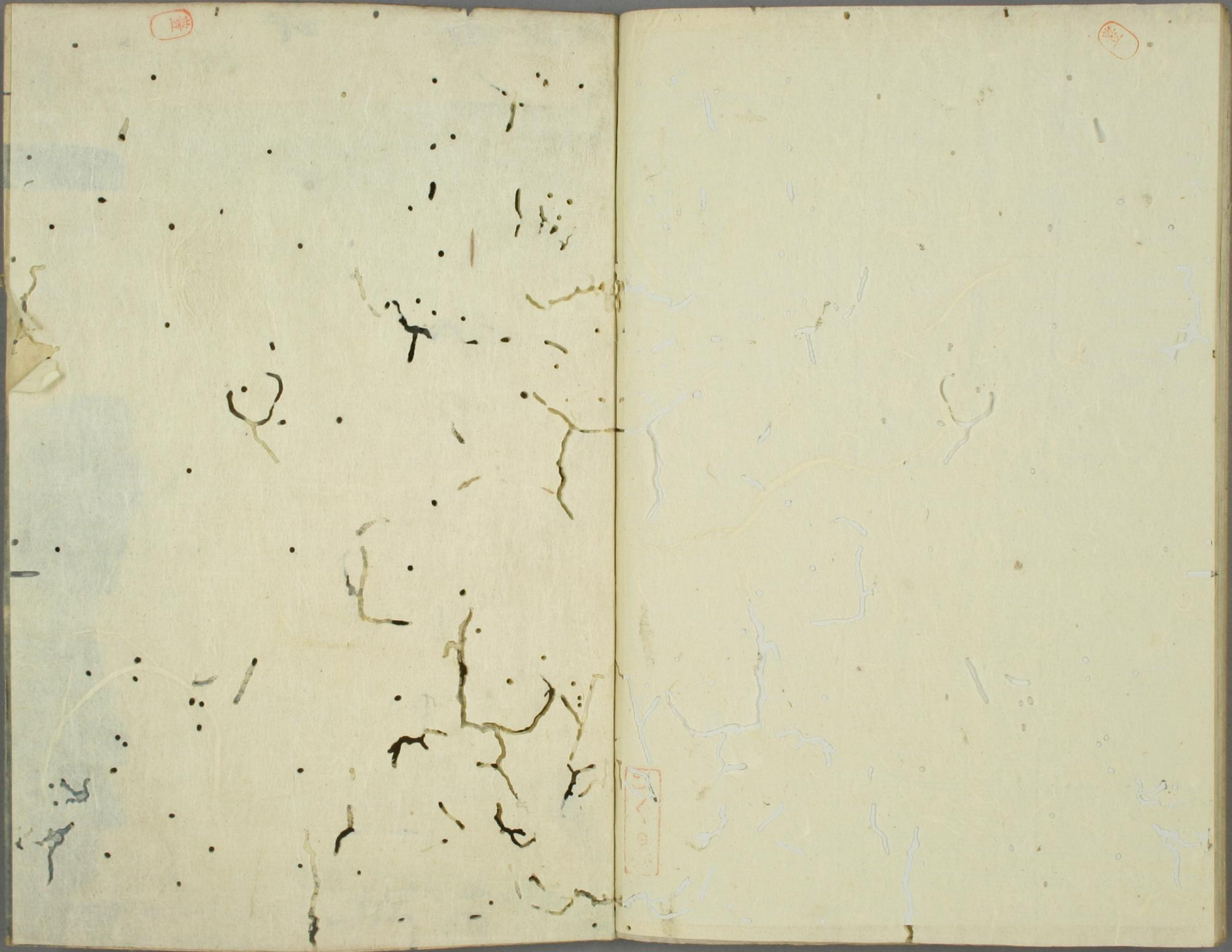
起自窓端見大星











Small red circular stamp in the upper left corner of the left page.

Small red circular stamp in the upper right corner of the right page.

Small rectangular red stamp in the central gutter of the book.

